

令和5年度 市政に関する市民懇談会「黒磯地区」概要

【日 時】 令和5年7月11日（火）午後2時～3時25分

【場 所】 いきいきふれあいセンター多目的ホール

【参加人数】 62人

【市出席者】 市長、渡邊副市長、企画部長、保健福祉部長、子ども未来部長、
企画政策課長・課長補佐・情報戦略担当（事務局）

【テ ー マ】 ①まちの持続的発展のために
②誰もが生き生きと暮らすために

【意見交換会（要旨）】

■テーマ① まちの持続的発展のために

参加者：那須塩原駅前からコンビニまでの道路の雑草が目立つ。観光地の玄関なので、雑草一つでイメージが変わってしまう。

参加者：イルミネーションなど、季節ごとに特徴のあるものを那須塩原駅前で行ったらどうか。

参加者：西口だけではなく、東口の方もどうにかしないといけない。

参加者：那須塩原駅周辺は土地が平坦で場所がいい。昔と異なり那須疏水という水源もあるので、それを目玉に工場などを誘致してはどうか。

参加者：新幹線を降りて何も無い、早く駅に着いても行く所がない、駅で何をしていたらいいのかわからない、といった声を仕事柄多く聞く。例えば、エントランスや西口広場に足湯があれば、それだけで時間が潰せる。また、駅を出て車に乗るまでに屋根がないので、ロータリーに屋根があるとよくなる。

参加者：板室街道の古い建物を改良したお店など、平日でも若い人たちがたくさんいる。参考になるのではないか。

参加者：温泉熱を使い、那珂川町のフグ、群馬県ではサバが人気になってテレビでも報道されているので、市でもやってみてはどうか。

参加者：何も無いということを利用して、本当に空気が綺麗で何も無い、汚れてない、そういったまちづくりも一つの戦略ではないか。

参加者：地域活性化に繋がる巻狩まつりの復活を期待している。

市：駅前の開発は、ごちゃごちゃと物を作るのではなく、駅からの景観や静かなイメージ

を保ちつつ、那須塩原を感じられるようなエリアを作っていきたいと考えている。これからのお祭りについては、新しい形を作っていけるよう議論を進めていく。

■テーマ② 誰もが生き生きと暮らすために

参加者：子どもの貧困やヤングケアラーなどは、子どもの虐待に繋がる。県などの関係機関とタッグを組んで、子どもの命を守ってほしい。

市：虐待の問題については、各関係機関がメンバーとなっている要保護児童対策地域協議会で対応を協議している。また、県の児童相談所とも連携して対処している。虐待が疑われる場合には、ダイヤル「189」または、今年4月に新設した、市の子育て相談課まで連絡いただきたい。

参加者：流山市のニュースで、70歳以上の高齢者の人数に対して、20歳以下の若者の人数が上回ったと。那須塩原市の場合はどうなってるのか。

市：国勢調査人口ベースでは、令和2年度で14歳未満の人数が1万4千人。それに対し65歳以上が6万7千人なので約3倍以上の格差がある。高齢化率については、2000年には14.7%だったが、今年度は約29%。2040年には国・那須塩原市とも39%、約4割の方が高齢者になる見込み。

参加者：高齢者になると免許返納とか言われるが、住んでいる所によっては車に依存する生活になるので、公共交通についても考えていただきたい。

参加者：昨年度までとこの市民懇談会のやり方を変えたが、急なことでもあり残念に思う。

市：那須塩原市は、若い方は県内では比較的多い方だが、このまま放置していると人口減少・高齢化は間違いなく進むので、しっかりと対策を練っていききたい。公共交通のあり方については、テクノロジーも進歩しているため、ベストな方法で行っていききたい。那須塩原市をもっと住みやすく魅力のある地域にするため、多くの市民の皆様と直接、対話を続けていきたい。